

張りたい」と話している。

て、ゆでたてのもりそば(4800円)や、かき揚げそば(5800円)のほか、夏はキュウリやタマネギの入った冷やしたぬきそばが名物だった。

客の要望を聞いて生まれただメニユーも多い。たぬきそばの揚げ玉を減らしたい客にはその分、刻みのりをトッピング。リクエストすれば、もりそばやざるそばを温かいつけつゆで出して

楽しみに訪れる客も多い。

毎週通う近くの団体職員(男性40)は「おいしいそばを安く食べられるサラリーマンの味方。つかの間の休憩にほっとできる場所だった」。30年来の常連という同市の女性(66)は「買い物帰りに子どもと食べるのが楽しみだった。閉店すると聞き、もう一杯食べたくて来た」とじつくり味わった。

前社長で夫の通生さんが亡くなって30年、社長を務

と言われると申し訳ない」と話す。良二さんも「年齢もあり、そろそろ節目という思い。仕方ないけれど、寂しいですね」と話した。

現店舗でのスズラン高崎店の営業は1月31日まで。すかやも同日まで休まず営業する。営業時間は午前10時〜午後7時。本店の閉店後も、のれん分けした県内の8店は営業を続ける。

(文 真下達也、写真 大橋周平)

文化財保存活用地域計画

素案作成で意見を公募

高崎市
10日まで

高崎市は10日まで、「市文化財保存活用地域計画」の素案へのパブリックコメント(意見公募)を行っている。

2018年に文化財保護法が改正され、計画策定が制度化されたため、初めて作る。歴史文化資産の保存活用に関する基本方針を示しており、計画期間は24、33年度の10年間。基本理念を「『東国屈指の歴史文化資産を誇るまち、たかさぎ』その歴史文化資産の価値魅力を知り、広め、未来へつなげる」とした。

館林市の伝統的な綿織物、館林紬をモチーフにした製品を展示販売する「初売り」が7日、同市仲町の館林パブリックハウスで開かれた。特徴的な柄を生かした繊維製品や文房具に来場者が見入った。

ネクタイ、手ぬぐい…

館林紬は現在は生産されておらず、1社だけ残る織元の在庫で製品を作っている。魅力を新しい形で広めて再興を目指すとうと地元有志が昨年7月、合同会社「紬・組」を設立。「日漣」と名付けたシンボルカラーのしま模様を取り入れた商品を、市内の事業者などと協業し製品化した。将来的に市内での

館林紬再興へ初売り



特徴的な柄を生かした製品が並ぶ会場

反物生産の復活を目指している。

この日は、日漣柄のネクタイや手ぬぐい、万年筆インクのセツト、マスキングテープなどカラフルな品々を販売した。館林紬の着物を着た代表社員(47)は「再興に向けた活動を知り興味を持った。反物を再んから活動の趣旨や展望などを聞

きながら、来場者は商品を買っていった。

都内から訪れた同市出身の小林沙織さん(47)は「再興に向けた活動を知り興味を持った。反物を再び市内で作れるようになるとうれしい」と期待した。(正田哲雄)

資料は市ホームページや市民情報センター、市文化財保護課、各支所地域振興課で見られる。意見は郵送やメール、ファクス、持参を受け付ける。問い合わせは市文化財保護課(☎027・321・2992)へ。(水村希英)